

碑

陣屋碑のいわれ

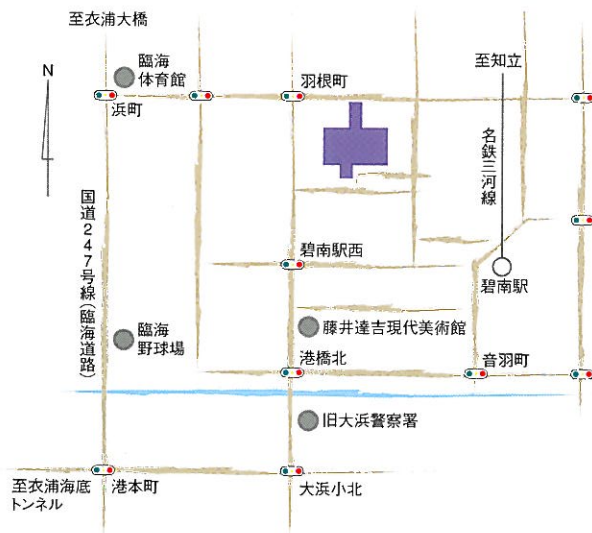
陣屋の役目を終え老松一株を残すだけとなっていた跡地に、明治44年(1911)5月陣屋址碑が建てられました。矢を入れる容器である空穂(うつぼ)の形をした碑に、「菊間藩陣屋址」の文字。大正年間撮影とされる古写真には、この頃の陣屋碑の様子が窺えます。しかし、太平洋戦争中に陣屋碑の青銅部分が供出され土台の石のみとなったため、昭和34年(1959)大浜陣屋址碑保存会が「陣屋址」という碑を再建して親しまれてきました。このたび、碧南市は大浜陣屋広場の整備にあたり、古写真をもとに陣屋碑を再現しました。



施設概要

所在地	碧南市羽根町一丁目12番地
整備面積	1,533.4m ²
附帯設備	山門 屋根本瓦葺き 高さ4.3m 開口部 高さ2.3m 巾2.49m 塀 笠木瓦葺き 高さ2.0m、1.7m、1.3m 沼津垣 竹編垣根 高さ1.7m 空穂(ユツボ) 青銅鑄造 高さ2.0m 東屋 コロニアル葺き 建築面積 5.29m ² トイレ 瓦葺き 建築面積 28.35m ² その他 散水設備、水飲み、ベンチ、夜間照明設備
設計	ランドブレイン株式会社 名古屋事務所
施工	土木工事 株式会社 石和組 建築工事 木村建設株式会社

碧南市大浜陣屋広場

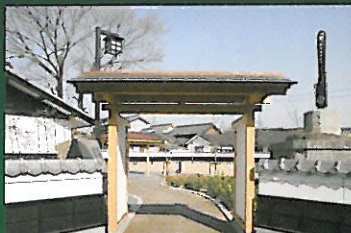


交通/名鉄三河線「碧南駅」より北へ徒歩約4分
知多半島道路・阿久比インターから車で20分
(衣浦大橋を渡って右折)



大浜陣屋とは

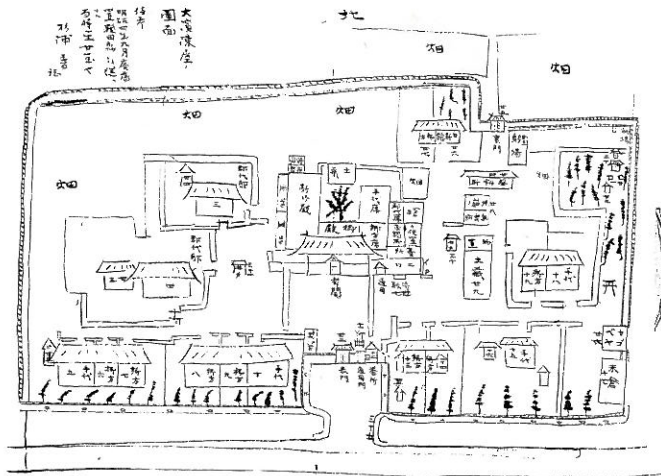
大浜陣屋とは、明和6年(1769)から明治5年(1872)まで、駿河沼津領主・水野家が三河における領地を支配するために設置した役所のことです。明和5年(1768)水野家は三河国大浜周辺6千石の加増を受け大名となり、翌年陣屋を設置しました。安永6年(1777)水野家が駿河国沼津(静岡県沼津市)に領地を与えられても、引き続き水野家の三河領の役所として機能しました。陣屋では沼津から派遣される代官(郡代)・手代と現地登用の郷方が陣屋内に住んで政務にあたっていました。明治に入り、最後の領主水野忠敬は上総国菊間(千葉県市原市)に移され、大浜陣屋は菊間藩大浜陣屋として廃藩置県を迎えました。



水野家は徳川家康の母・於大の方(伝通院)の実家。水野忠清の時に信濃松本7万石の大名となるも、享保10年(1725)忠恒が江戸城内で刃傷沙汰を起こし領地を没収、信濃佐久郡内7千石の旗本として家名を存続していました。この家が再興したのが忠友・忠成の代。忠友はここ三河大浜領を得て大名となり、子の忠成は天保元年(1830)5万石となります。これは、忠友・忠成の二代が幕府の老中を務め、幕府政治の中核を担ったからです。水野家の家紋・沢瀉がみえる行列には水野家の威風が表れています。



沼津藩主水野忠成像(福寿院所蔵)



大浜陣屋/図面(杉浦弘氏寄贈資料、沼津市明治史料館所蔵)



菊間藩管内絵図(愛知県図書館所蔵)

忠敬 信元・忠重・忠清・忠職・忠直・忠周・忠幹・忠恒・忠毅・忠友・忠成
(信濃松本)
 忠義・忠武・忠良・忠寛・忠誠・忠敬
(駿河沼津)
 忠守・忠元・忠善・忠春・忠益・忠之・忠輝・忠辰・忠任・忠興・忠光
(三河岡崎)
 忠邦・忠精・忠弘
(遠江松平出羽形)
 於大 家康

水野系図
 (沼津市大浜地区の歴史とくらし)をもとに作成)



沼津水野出羽守御入部行列(西尾市岩瀬文庫所蔵)